

＜空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！＞

2024.6.19

## JAL闘争を支える京都の会News No.105

京都市東山区今熊野南日吉町17 FAX:075-531-3856 E-mail: [komai123@kfa.biglobe.ne.jp](mailto:komai123@kfa.biglobe.ne.jp)

# JALはベテラン労働者解雇の反省なくして「安全」を語る資格はない！

2024年5月28日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「なかまユニオン」、「自立労連」、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」、「憲法を生かす京都の会」の皆さんなど、雨が強かった中でしたが、計11人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「JALは2010年大晦日、パイロット・客室乗務員あわせて165名を解雇した。この問題を許せば、日本中誰も安心して働けなくなる。なぜならJALはその年史上最高の営業利益を上げていたからである。そして解雇された165名全員が労働組合に結集してモノを言っていたからである。こんな解雇がまかり通っては航空の安全が守れない、そして労働組合の



権利が奪われるということで、この大雨の中、京都の労働者・JAL闘争を支える会の皆さんがこの大手筋商店街で宣伝くださっている。私は2010年大晦日に解雇された当該の神瀬と申します。私神瀬から今日は3つのことをお話させていただきたい。

1つは1月2日に羽田で起きた海上保安庁とJALの衝突事故の話である。『あの事故にはたくさんの教訓が含まれていて、再発防止のためにはやるべきことがたくさんある』とこの大手筋商店街でも訴えてきた。その内の1つが客室乗務員はドアに一人以上配置するべきという、私たち客室乗務員が長年、国土交通省に訴えてきたことである。あの飛行機A350には8つのドアがあり、あの日は9名のCAが乗っていた。JALにはボーイング787という同じくドアが8つの飛行機があるが、客室乗務員は7名しかいない。2つのドアを一人で操作しなくてはならない、こんなことは絶対にすぐに解消しなければならないと言い続けてきた。その世論がJALを動かした。7月1日から787機はドア数と同じ数、8名が乗ることが決まった。

それはあの事故の教訓を活かしたことであり、たった一つではあるが世論がJALを動かしということになると思う。そしてもう一つは、JALが去年の秋から事故が止まらないことである。事故や事故一步手前の事象、そして不祥事が止まらない。4月から社長になった客室乗務員出身の鳥取社長が国交省の呼び出しに応じて90度のお辞儀をしていた。JALの社長が今やるべきことはお辞儀ではない。JALの中の不安定要素を取り除くことが今、一番求められていることである。そしてJALの安全のためには、この争議を解決しなければ第一歩が踏み出せないと考えている。私たち全員が安全のためにモノを言い続けた人間だからである。去年の秋からどれだけ不祥事・事故そして事故一步手前の事象が起きているかを調べてみると報道されただけでも11件ある。国交省による立ち入り調査がおこなわれ、鳥取社長が国交省に呼び出されて口頭による厳重注意がおこなわれた。いったい鳥取社長は何のために社長になったのか、謝るためだったのか、謝ることを女性に押し付けたのではないか、そんなことまで考えてしまう。3つ目はそのような事故を抱えながらまだ真剣に安全のことを考えていない。それは東京都労働委員会に出てきた文書、態度に表われている。JALは東京都労働委員会で解決したいと言ってあっせんに乗ってきた。組合からの要望を聞かせてほしい、要求は何なんだということで、私たちは真剣に話し合って、3月19日に会社への解決案を提示した。これまでの要求にはこだわらず、自由な討論をおこなってこれなら解決できるだろうというところまで歩みよったつもりである。それにもかかわらず会社が5月23日に出てきた回答はゼロ回答であった。これまでと何一つ変わらない。謝らない、お金は払わない、職場には戻さない、そんな態度をとっているJALは今後安全の運航ができるのであろうか。大手筋商店街の皆さん、ご理解ご協力をお願いします。」と訴えました。



## 神瀬さん（JHU）の参加報告（JAL不当解雇撤回争議団のfacebookから）

2024年5月28日

アーケードが続く京都伏見区の大手筋商店街で宣伝を行いました。

「この争議を話し合いで解決すると言い、都労委の斡旋に応じたJAL。こちらはそのことを真摯に受け止めて3/19に解決案を提示したが、5/23の会社からの回答はゼロだった。その一方で不安全事象を止めることができないJAL。

働くものの声に耳を傾けない経営方針が今問われている！」と訴えました。

大雨にもかかわらずご参加くださったみなさまに、心から感謝申し上げます。

JALは安全を言うなら今すぐ争議を解決せよ！

次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)

6月25日（火） 午後2時～3時 伏見・大手筋商店街